

高齢者ケアサービス論

担当教員 生野 繁子

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

1. 変化する日本の高齢者ケアサービスのあり方を再確認し、看護福祉・健康支援の課題を探る。
2. 少子高齢社会と人口減少の進展に伴う地域包括ケアシステムと、高齢者ケアサービスのあり方を展望する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	導入 授業計画の説明・日程調整・受講生の自己紹介・高齢者ケアサービスに関する経験など
2	ケア関連領域での高齢者ケアに関する教育の変遷
3	国が進める地域包括ケア
4	介護保険法の理念・各国の制度の展望
5	介護保険法の概要・改正点
6	介護保険法によるケアサービス
7	老人福祉法によるケアサービス
8	自治体独自による高齢者ケアサービス
9	地域密着・小規模多機能高齢者ケアサービス
10	高齢者ケアサービスを支える財源
11	公的年金制度と高齢者の生活
12	介護保険制度によるグループホーム・小規模多機能施設見学研修
13	自治体サービスによるグループホーム見学研修
14	ケア実践者のNPO法人によるデイサービス等の施設見学研修
15	高齢者ケアサービスにおける看護福祉・健康支援の課題についてディスカッション

【履修上の注意事項】

1. 履修者数により、講義の展開順序に変化もありうる。
2. 履修する院生は、それぞれのテーマに沿ってレジュメやレポートを作成しディスカッションする。
3. 施設見学研修は履修登録確定後に日程調整する。

【評価方法】

提出レポート50%、発言内容50%の割合で総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献】

1. 最新版「高齢社会白書」「介護六法」「社会福祉六法」等。
2. 他、必要時に随時紹介する。

ヘルスケアシステム論

担当教員 徳永 淳也

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

国民医療費の高騰と情報化の推進などを背景として、保健・医療・福祉サービスは複雑化、高度化が顕著であり、医療（健康）情報の共有とサービスの質保証の重要性が再認識されている。本論では、ヘルスサービスの各領域における質的保証と情報管理に関しての具体的な課題提示から出発し、それらの背景にある特徴的な問題理解のための視点を欧米の先行研究レビューを踏まえて明らかにすることを目的とする。

【授業の展開計画】

質的評価の視点から注目されている顧客満足度やサービス提供者の職務満足度を中心とするサービスのアウトカム評価指標や質改善に関して、グループ討議や論文紹介等を通じて理論的理解を深め、実践的問題解決能力を習得する。講義は、概ね以下の内容に沿いながら進められるが、当該内容に関する研究論文の発表を通じて、批判的な研究評価法等についても習得することが望ましい。

1. 医療と社会、医療システムの評価
2. 医療小史と法制度からみた医療システム
3. 医療と経済、市場機構
4. 供給者誘発需要と代理関係
5. 保険の理論と健康保険
6. 産業としての医療
7. 医療の経済的評価
8. 医療における質評価と管理
9. 研究事例1：医療の質評価とは(実務家教員・双方向)
10. 研究事例2：職務満足度と患者満足度-職種、職階、疾病による特徴-(実務家教員・双方向)
11. 研究事例3：医療従事者の職務環境と患者アウトカムの関連(実務家教員・双方向)
12. 研究事例4：医療の質は患者アウトカムに影響を与えるか(実務家教員・双方向)
13. 研究事例5：医療保険支払い方式が患者アウトカムに与える影響(実務家教員・双方向)
14. 研究事例6：医療従事者のマンパワー充足と医療の質(実務家教員・双方向)
15. 研究事例7：医療施設の組織風土が医療の質におよぼす影響(実務家教員・双方向)

【履修上の注意事項】

講義は、提供されたトピックスについての議論を中心に進めるので、問題意識を持って講義に望むこと。また、課された論文についての発表を行わなければ単位は認められないので注意すること。講義の前後では、配付された資料等をもとに予習・復習に努めること。(120分)

【評価方法】

論文発表50%、講義や論文を題材とした討議内容50%の割合で評価する。

【テキスト】

講義中に適宜紹介する

【参考文献】

講義中に適宜紹介する

医療統計学

担当教員 森 信之

配当年次 1年

単位区分 選択

準備事項

備考

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

本講義では、実際の事例に即した演習を取り入れながら、看護・福祉分野における統計学の基礎知識と各種手法を習得し、それぞれの専門分野における調査研究や、現場での実務作業を遂行する上で、得られたデータを統計学的手法を用いて分析できるようになることを目的とする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	統計学と確率論
2	記述統計, 各種統計量の定義
3	正規分布, t分布, χ^2 乗分布, F分布
4	標本調査と母集団, 点推定と区間推定
5	検定の考え方, 2種類の過誤, サンプルサイズ
6	2つの平均値の差の検定 (t検定)
7	ノンパラメトリック検定 (順位和検定・符号検定)
8	比率の検定 (対応あり, 対応なし), リスク比, オッズ比
9	適合度の検定, 独立性の検定
10	残差分析, マクネマー検定
11	分散分析と多重比較
12	相関関係と相関係数, 回帰分析
13	重回帰分析
14	ロジスティック回帰
15	総合演習

【履修上の注意事項】

テキストがないので、講義の内容を事前に予習しておくこと。また、演習問題を中心に復習をし、考え方のプロセスを理解すること。わからないことは質問するなどして、早めに解決しておくこと。

【評価方法】

統計処理の演習のレポートを課し、適切な統計手法が選ばれているか、結果の判断は適切か、結果をわかりやすくまとめて表現できているか、などを実践的に評価する。

【テキスト】

テキストは使わず、適宜プリントを配布する

【参考文献】

必要に応じ、講義中に紹介する。

健康医科学

担当教員 ○未定、未定、篠原 昭二、永田 俊明、平崎 和雄

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

- (1) 将来「医学」「健康」をキーワードにした有能な高度専門スタッフの育成を目指し、健康科学、医科学、臨床医学全般についての基礎的知識を修得し、健康、医学、そして人間とは何かについて理解できる。
- (2) 健康科学、医科学領域での研究を推進するために必要な科学的裏付けを得るための基礎的研究手法を理解し、大学院生として必要な問題意識を持って情報収集、情報分析、そして新知見を発見できる能力を身につけることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	ガイダンス、医学概論・生命倫理	(掃本)
2	医科学研究概論①(疫学入門)	(二塚)
3	医科学研究概論②(遺伝薬理学入門)	(掃本)
4	医科学研究概論③(遺伝・環境要因と疾患入門)	(掃本)
5	医科学研究概論④(薬物治療学入門)	(樋口)
6	医科学研究概論⑤(東洋医学入門)	(篠原)
7	人間機能・形態学入門①(人体の構造と機能)	(永田憲)
8	人間機能・形態学入門②(心臓の構造と機能)	(掃本)
9	人間こころ心理学概論	(永田俊)
10	人間疾病・治療学概論(免疫学入門)	(掃本)
11	健康科学概論①(人間スポーツ科学)	(平崎)
12	健康科学概論②(筋機能科学—身体不活動の影響)	(加藤)
13	臨床医科学概論①(小児科学、障害者教育)	(永田憲)
14	臨床医科学概論②(内科学)	(掃本)
15	臨床医科学概論③(生活習慣病と疾患)	(掃本)

【履修上の注意事項】

各院生の受講可能な曜日、時刻を調整し、授業日を決める。

【評価方法】

討論(50%)、レポート内容(50%)により総合的に評価する。

【テキスト】

複数の分野にわたる講義なのでテキストは使用しない。必要に応じプリントを配布する。

【参考文献】

必要に応じ、適時紹介する。

精神保健臨床論

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選択

開講時期 第2学期

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考

【授業のねらい】

裾野の広い精神保健学的視座を養うと同時に、メンタルヘルスに関するトピック等から臨床実践例に触れる機会を準備する。本講義を通じ、院生自身の関心のあるメンタルヘルス現象をバイオ・サイコ・ソーシャルを含む多角的視点から捉えられるようになる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	精神医学総論（野田）
2	統合失調症（野田）
3	老人の精神疾患（野田）
4	摂食障害・神経症・心身症（野田）
5	パーソナリティ障害（野田）
6	身体疾患による精神疾患・リエゾン（野田）
7	小児・思春期の精神疾患（木村）
8	感情障害・自殺関連（藤瀬）
9	臨床心理カウンセリング総論（福田）
10	臨床心理カウンセリング症例（福田）
11	現代社会における精神保健の諸問題（茶屋道）
12	心の健康と精神科ソーシャルワーク（茶屋道）
13	アルコール・薬物依存（茶屋道）
14	いじめ・ひきこもり・不登校へのソーシャルワーク（茶屋道）
15	メンタルヘルス課題におけるチーム医療（茶屋道）

【履修上の注意事項】

院生は主体的に講義に参加し、日常的に問題意識を持ち活発な質疑により学習内容を深めるよう努力すること。特に自身の修士論文テーマと、毎回の講義テーマを関連づけて、問題意識や事前学習を深めて講義に参加するとともに、講義後の振り返りを行うこと。

【評価方法】

授業中のレスポンス（主体的な発言とディスカッションの内容や深まり）30%
レポート70%

【テキスト】

特に使用しない。必要に応じて資料を準備する。

【参考文献】

授業の中で適宜指示をする。

健康支援科学通論

担当教員 ○川俣 幹雄、生野 繁子、福本 久美子、山本 恵子、石井 里加子、金子 憲章、
徳永 淳也、塚本 紀之、二宮 省悟、内田 匠治

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 当該科目は4ページにわたり記載している。(1/4)

【授業のねらい】

世界保健機関（WHO）は「健康」について次のように定義している。「Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.」つまり、健康とは「疾病または病弱でないということだけではなく、肉体的、精神的ならびに社会的にも完全に良好な状態」を指す。

【授業の展開計画】

[総論]

1. 川俣 幹雄：テーマ【健康支援科学の学問的背景】

キーワード：健康，健康支援，ヘルスプロモーション

概要：健康支援科学通論は、「健康寿命」と「ヘルスプロモーション」の概念をベースに「身体のケア」及び「心のケア」，および「身体のケア」の側面から，対象者の健康支援に関わるための多職種相互理解と連携強化を目指す基盤科目である。健康支援科学専攻設置の趣旨とその社会的意義について概説する。

2. 川俣 幹雄：テーマ【健康支援のための介入法と効果検証】

キーワード：介入法，EBM，メタ・アナリシス

概要：公衆衛生学的な視点から見た健康支援のための代表的な2つの介入法（ポピュレーション・アプローチとハイリスク・アプローチ）について学ぶ。さらに介入後の効果検証について，EBMの概念とそれを導き出すための基礎的統計手法（オッズ比，相対リスク比，メタ・アナリシス等）について学ぶ。

[各論]

3. 生野 繁子：テーマ【ケアとジェンダー】

キーワード：ジェンダー，ケア，男女共同参画社会

概要：古来、人々の営みはジェンダーと大きく関わっている。現代社会のジェンダー視点と男女共同参画の現状を概説し、具体的に暮らしの中のあり方とケアに関するジェンダーの影響を考察する。

【履修上の注意事項】

健康支援科学の学問的背景，学問領域について学ぶための極めて重要な科目の1つであるため，講義中の積極的な討議や意見交換を期待する。

【評価方法】

各講義の後のレポート（100%）で評価する。

【テキスト】

講義中に配布する。

【参考文献】

適宜，紹介する。

健康支援科学通論

担当教員 ○川俣 幹雄、生野 繁子、福本 久美子、山本 恵子、石井 里加子、金子 憲章、
徳永 淳也、塚本 紀之、二宮 省悟、内田 匠治

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 当該科目は4ページにわたり記載している。(2/4)

【授業のねらい】

つまり、健康とは①身体機能、②精神機能、そして③社会福祉の3つの要素を有機的に連携したものである。そして、本学の医療・福祉の専門職養成大学の特性を加味すれば、健康支援とは医療的アプローチ（医学、理学療法、鍼灸学、口腔保健学、看護学）と社会科学のアプローチ（社会福祉学、心理学）の両側面を基盤とした複合科学として位置づけることが出来る。

【授業の展開計画】

[各論]

4. 生野 繁子：テーマ【ジェンダー視点からの介護予防と介護者の健康支援】

キーワード：ジェンダー、介護予防、介護者支援

概要：高齢者が地域においてQOLを保ち自分らしく過ごすために、自分自身の介護予防と、要支援要介護者及び家族介護者の健康支援は重要な課題である。要支援要介護の原因疾患の性差、介護する男性の増加に伴う介護者支援の現状と課題を教授し、健康な生活と家族支援についてジェンダー視点から考察する。

5. 福本 久美子：テーマ【働く女性の健康支援】

キーワード：労働の質、ヘルスプロモーション、ソーシャルキャピタル

概要：女性のライフスタイルの特徴から過度なダイエットによる健康リスク、女性特有のガン、更年期障害や閉経後の循環器疾患等、様々な健康課題が存在する。超高齢社会にむけ、女性の労働力は重要な資源である。働く女性が労働の質を高め健康な暮らしを送るためには、個人のライフスタイルの改善のみならず、健康的な社会環境の整備を図ることが重要である。働く女性の健康課題とその支援の実態について、ヘルスプロモーションとソーシャルキャピタルの視点から実践事例と研究成果について教授する。

6. 山本 恵子：テーマ【看護学領域から見た転倒・介護予防と健康支援】

キーワード：転倒予防、高齢者、認知症

概要：高齢者の転倒の9割が生活の場で起きている。高齢者の生活の場は、自宅のみならず施設など多様化し、健康レベルも自立から要介護者、認知症まで様々である。本講義では、多様な背景をもつ高齢者への転倒予防の実際と課題について教授し、認知症を含めた支援について、議論を通して考7.

7. 川俣 幹雄：テーマ【理学療法領域からみた転倒予防と健康支援】

キーワード：転倒予防、生活機能トレーニング

概要：先進国を中心に高齢化社会を迎え、高齢者の転倒は、生活機能の低下に直結し、医療・社会的に極めて重要な問題となっている。転倒の内因性リスク因子としては、バランス障害、筋力低下、視力障害などが挙げられ、これら身体機能レベルに対する理学療法戦略の有効性について最新のエビデンスを提示しながら教授する。

【履修上の注意事項】

健康支援科学の学問的背景、学問領域について学ぶための極めて重要な科目の1つであるため、講義中の積極的な討議や意見交換を期待する。

【評価方法】

各講義の後のレポート（100%）で評価する。

【テキスト】

講義中に配布する。

【参考文献】

適宜、紹介する。

健康支援科学通論

担当教員 ○川俣 幹雄、生野 繁子、福本 久美子、山本 恵子、石井 里加子、金子 憲章、
徳永 淳也、塚本 紀之、二宮 省悟、内田 匠治

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 当該科目は4ページにわたり記載している。(3/4)

【授業のねらい】

また、近年、本邦で策定された「新健康フロンティア戦略－健康国家への挑戦－」では、具体的アクションプランが提示されており、その中でも「歯や口腔の健康」、「メタボリックシンドローム対策」、「転倒予防」、「介護予防」、「疾病予防」、「女性の健康」、「こころの健康」、「食の選択」、「スポーツ振興」、「子供の健康」などは重要なキーワードとして位置づけられている。

【授業の展開計画】

8. 二宮 省悟：テーマ【高齢者スポーツと健康支援】

キーワード：高齢者スポーツ、トレーニング効果

概要：健康増進の1つとして、スポーツ活動に取り組む高齢者は年々増加し、さらにその活動内容も多様化している。それに伴いスポーツ傷害に対する医療ニーズも高まってきている。傷害予防のために高齢者の身体機能を如何に向上させるかが重要課題である。高齢者の身体トレーナビリティについて生理機能側面から最新のエビデンスを提示しながら教授する。

9. 川俣 幹雄：テーマ【がん予防と健康支援】

キーワード：がん予防、生活習慣

概要：がんは、1981年からの約30年間日本における死亡原因の第1位であり、総死亡の約30%を占めている。がんは難治性の疾患であるが、一部のがんは、予防可能であることが様々な疫学的研究によって示されている。本講義では、①がんのリスクファクター、②日本と欧米におけるがんの疫学的相違、③生活習慣とがんの予防戦略、④1次予防と2次予防などについて教授する。

10. 塚本 紀之：テーマ【鍼灸と免疫～東洋医学からみた感染症予防への健康支援～】

キーワード：未病、免疫、神経、リンパ球、サイトカイン

概要：鍼灸による免疫調節の基礎となる神経系による免疫調節についての最近のトピックスを中心に、東洋医学の古典にみられる免疫の概念なども解説しながら、鍼灸による感染症予防への健康支援について教授する。

11. 内田 匠治：テーマ【鍼灸学（東洋医学）からみた介護予防】

キーワード：経絡、気功、ロコモティブシンドローム

概要：運動器の障害による要介護の状態や要介護リスクの高い状態を示す「ロコモティブシンドローム」の対策として推奨される運動と東洋的な身体訓練法（気功・太極拳など）を比較しながら、伝統的な身体技法の介護予防に対する有用性について考察する。さらに東洋的な身体観に基づく経絡や経穴を用いた運動器への介入が介護予防に有用であるということについても実例を示しながら教授する。

【履修上の注意事項】

健康支援科学の学問的背景、学問領域について学ぶための極めて重要な科目の1つであるため、講義中の積極的な討議や意見交換を期待する。

【評価方法】

各講義の後のレポート（100%）で評価する。

【テキスト】

講義中に配布する。

【参考文献】

適宜、紹介する。

健康支援科学通論

担当教員 ○川俣 幹雄、生野 繁子、福本 久美子、山本 恵子、石井 里加子、金子 憲章、
徳永 淳也、塚本 紀之、二宮 省悟、内田 匠治

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選択

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 当該科目は4ページにわたり記載している。(4/4)

【授業のねらい】

そこで当該授業は大きく2段構成とする。まず、第1～2回目はヘルスプロモーションの視点からとらえた健康について講義し、健康支援科学の学問的背景及びその研究対象領域の概説を教授し全体像の把握を図る。次に第3回目以降の講義からは、より専門的視点から健康支援科学についての各論を展開し、医療と福祉の有機的連携の必要性を学ぶ。そして、これら知識を臨床場面で実践応用できるようになる。

【授業の展開計画】

12. 内田 匠治：テーマ【東洋医学からみた「こころ」の健康支援】

キーワード：心身一如、氣、鍼灸、漢方

概要：東洋医学では身体が切り離せないもの（心身一如）という考え方がある。また精神活動と身体活動の両面にまたがって作用する「氣」という上位概念があり、こころという無形のものに対して、身体を介して治療するという発想がある。それらが、鍼灸・漢方臨床としてどのように実践されているか実例を交えながら東洋的な「こころの健康」観について教授する。

13. 徳永 淳也：テーマ【口腔保健学的接近と健康支援科学の展開】

キーワード：口腔保健学、社会疫学

概要：口腔保健に関する疾患分布、食行動や健康観等の諸相やその口腔保健学的捉え方について、社会で生活する人間という視点から理解することの重要性を先行研究を踏まえて説明し、健康支援科学としての口腔保健学的接近の社会的意義について考察する。

14. 金子 憲章：テーマ【う蝕・歯周病予防の健康支援】

キーワード：う蝕、う蝕、生活習慣病、歯周病原性細菌、炎症性サイトカイン

概要：う蝕を予防する方法を教授し、歯髄、根尖性組織への波及を防止する。また、生活習慣病としての歯周病の定義を理解し、歯周病の原因である歯周病原性細菌の直接的障害作用や歯周組織内で産生された炎症性サイトカインによる肥満・糖尿病、心血管疾患、出産、呼吸器疾患への影響を分子生物学的に教授し、う蝕・歯周病予防による健康支援を考察する。

15. 石井 里加子：テーマ【歯と口の健康支援】

キーワード：歯・口、健康、QOL

概要：歯と口の健康は、単に歯科疾患を予防するだけでなく、食べる、話す、呼吸する、表情をつくる等、ヒトが生きていく上で重要な機能を発揮させることにある。本講義では、歯・口の健康とQOL（生命・生活・人生の質）との関連について教授し、その支援方法を多角的視点から考察する。

【履修上の注意事項】

健康支援科学の学問的背景、学問領域について学ぶための極めて重要な科目の1つであるため、講義中の積極的な討議や意見交換を期待する。

【評価方法】

各講義の後のレポート（100%）で評価する。

【テキスト】

講義中に配布する。

【参考文献】

適宜、紹介する。

看護教育論

担当教員 ○生野 繁子、徳永 淳也、福本 久美子、松本 鈴子、塚本 紀之、中野 聡太、
吉岡 久美

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選必

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 教育職員専修免許状必修科目

【授業のねらい】

1. 看護職者の成長を支援する看護教育制度の概要と動向を理解する。
2. 保健師・助産師養成に関する教育制度と教育課程を理解する。
3. 介護福祉士・理学療法士・鍼灸師・歯科衛生士の教育制度・教育課程を知り、専門職連携の理解を深める。
4. 看護教育の組織運営、評価、授業展開、継続教育の基礎知識を得る。
5. 受講生の関心のある項目に関して授業案を作成、模擬講義を実施し、自身の実践に還元する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	導入・ガイダンス 看護師養成制度と看護学教育の外観 (生野)
2	看護教育制度論・課程論 (生野)
3	保健師教育制度論 (福本)
4	保健師教育課程論 (福本)
5	助産師教育制度論 (松本)
6	助産師教育課程論 (松本)
7	介護福祉士教育制度論 (吉岡)
8	介護福祉士教育課程論・医療的ケアに関わる教育について (吉岡)
9	理学療法士教育制度論・課程論 (中野)
10	鍼灸師教育制度論・課程論 (塚本)
11	歯科衛生士教育制度論・課程論 (徳永)
12	看護教育組織運営論 (生野)
13	看護学教育評価論・継続教育論 (生野)
14	看護学教育授業展開論・授業・実習展開案の作成 (生野)
15	発表(模擬授業実施)・講評・まとめ (生野)

【履修上の注意事項】

1. 提示された事前課題（資料配布）を通読しておくこと。詳細は初回講義時に説明する。
2. 履修者確定後に日程調整をするため、講義内容が前後する場合がある。

【評価方法】

福本(10%)・松本(10%)・吉岡(10%)・中野(5%)・塚本(5%)・徳永(5%)・：各担当コマ終了後にA41枚に学びをレポートし提出。生野(55%)：授業案15%・模擬講義プレゼンテーション20%・提出レジュメ等20%。
模擬授業等の評価については15回終了時までには口頭等で行う。

【テキスト】

杉森みど里・舟島なをみ著「看護教育学(第6版)」医学書院、2017。

【参考文献】

1. 舟島なをみ監「看護学教育における授業展開一質の高い講義・演習・実習の実現に向けて一」医学書院、2016。

看護管理論

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選必

準備事項

備考 教育職員専修免許状必修科目

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

近年の医療を取り巻く現状を理解し、問題解決を進めるために、制度・政策の変遷を知り、医療界、看護界の未来を概観し、さらに高度な看護実践を行う専門看護師に必要な看護管理の基本になる諸理論や技術を体系的に学び、看護管理学に関する研究能力および実践能力を高める。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	看護管理学概論 1
2	看護管理学概論 2
3	日本の医療サービス提供システム
4	医療経済の仕組み
5	看護マーケティング
6	看護サービス提供の課題
7	看護経営・経済論
8	看護と組織
9	人的資源管理
10	キャリア開発
11	看護倫理とサービス管理
12	サービス管理とリスクマネジメント
13	諸外国における看護管理教育
14	看護サービス管理と研究
15	まとめ

【履修上の注意事項】

看護管理に関する問題意識や課題を持って受講の方が効果的

【評価方法】

授業態度50%、レポート40%、討論参加10%

【テキスト】

講師作成の講義資料及び編集中西睦子『看護サービス管理』第4版 医学書院

【参考文献】

適宜紹介する

看護倫理

担当教員 ○柴田 恵子、生野 繁子、松本 鈴子、山本 恵子、二宮 球美、
塚本 紀之、中野 聡太

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選必

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 教育職員専修免許状必修科目

【授業のねらい】

1. 看護倫理に関連する基礎的知識を習得する。
2. 臨床における倫理的諸問題へ意識を向け、看護職としての考え及び対応を考察する方法を理解する。
3. 看護学分野で質の高い研究に基づく社会貢献能力、研究を通じた応用研究活動力、新たな価値や社会的視座に立った問題解決能力に、看護倫理の学びを生かす。
4. 看護倫理への関心と行動への意欲を維持するために必要となる自己の課題を明らかにする。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション、看護倫理に関する基本的内容の確認(柴田)
2	倫理綱領の概念の理解、倫理的諸問題に関する考え方と対応(柴田)
3	成育医療分野における看護倫理：小児看護を中心に(二宮)
4	成育医療分野における看護倫理：母性看護を中心に(松本)
5	老年看護学における看護倫理：ジェンダーを中心に(生野)
6	老年看護学における看護倫理：認知症を中心に(山本)
7	研究倫理：看護研究における倫理審査(塚本)
8	研究倫理：実験研究におけるデータ取得(中野)
9	事例分析の方法：在宅看護の事例(柴田)
10	ヒューマンケアと看護倫理(柴田)
11	看護実践における倫理的諸問題と対応(柴田)
12	看護教育における倫理的諸問題と対応(柴田)
13	看護倫理に関するテーマ設定と討議(柴田)
14	看護倫理のテーマに関する発表(柴田)
15	総括：看護倫理への関心と行動への意欲を維持するために必要となる自己の課題(柴田)

【履修上の注意事項】

オリエンテーション時に授業計画を確認し、講義前に授業内容に関連する専門用語、関連事項について調べておくこと(予習)。講義終了後は、作成したレポート等の内容について加筆、修正を行うこと(復習)。

【評価方法】

参加・態度：40%、レポート：60%

【テキスト】

随時、紹介する。

【参考文献】

小西恵美子：看護倫理、南江堂、2014. 松木光子：看護倫理学、ヌベールポカ、2010. 坪倉繁美：看護倫理の基本、医学芸術社、2006. 杉谷藤子・川合政恵：ケアを深める看護倫理の事例検討、日本看護協会出版会、2011.

コンサルテーション論

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選必

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

開講時期 第1学期

授業形態 講義

単位数 2

【授業のねらい】

コンサルテーションのタイプ、モデル、プロセスを理解し、高度看護実践家に必要なコンサルテーションの理論と技法の修得をめざす。また状況や場面に応じたコンサルテーションの活用方法についても教授する。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	国内外の高度看護実践家の役割と機能
2	コンサルテーションの定義、タイプ、モデル、プロセス、他の治療との違い
3	ケース中心のコンサルテーション
4	コンサルティ中心のケース・コンサルテーション
5	プログラムに関する管理コンサルテーション
6	コンサルティ中心の管理に関するコンサルテーション
7	倫理に関するコンサルテーション
8	組織へのコンサルテーション
9	倫理的問題に対するコンサルテーション
10	家族へのコンサルテーション
11	医療従事者へのコンサルテーション
12	A PRN間のコンサルテーションとスーパービジョン
13	コンサルテーションの実際
14	コンサルテーションの展開
15	コンサルテーションの評価

【履修上の注意事項】

講義とロールプレイを交えて行う

【評価方法】

レポート30%、ロールプレイ70%

【テキスト】

E・H・シャイン(2012)：プロセス・コンサルテーション、白桃書房
 宇佐美しおり・野末聖香編(2009)：精神看護スペシャリストに必要な理論と技法、日本看護協会出版会

【参考文献】

Ann, B, Hamric(2008)：Advanced Practice Nursing, An Integrative Approach, 4th Edition, Saunders

看護理論

担当教員 ○山本 恵子、檜枝 洋記、松本 鈴子、二宮 球美、中野 聡太

配当年次 1年

開講時期 第1学期

単位区分 選必

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

【授業のねらい】

1. 看護理論に関する基本的知識を習得する
2. 看護実践と看護理論のつながり・活用について、自身の言葉で説明できる
3. 看護理論を自身の実践及び研究と重ねて考えることができる
4. 関連分野の知識を看護理論に活かすことができる

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容
1	看護理論の概要（山本）
2	看護理論と実践1：看護理論の重要性と活用（山本）
3	看護理論と実践1：実践を踏まえたグループワーク（山本）
4	看護理論と実践1：発表とまとめ（山本）
5	看護理論と実践2：成長・発達の諸理論（二宮）
6	看護理論と実践2：実践を踏まえたグループワーク（二宮）
7	看護理論と実践2：発表とまとめ（二宮）
8	看護理論と実践3：看護援助に活用する理論（松本）
9	看護理論と実践3：実践を踏まえたグループワーク（松本）
10	看護理論と実践3：発表とまとめ（松本）
11	理学療法の分野から見た看護理論の応用1（中野）
12	理学療法の分野から見た看護理論の応用2（中野）
13	生命科学の分野から見た看護理論への応用1（檜枝）
14	生命科学の分野から見た看護理論への応用2（檜枝）
15	まとめ：看護理論と実践

【履修上の注意事項】

予習をして授業に出席すること。グループ討議では主体的に学びを深めること。

【評価方法】

個人レポート（80%）、プレゼンテーションおよびグループ討議（20%）

【テキスト】

適宜紹介する

【参考文献】

適宜紹介する

看護政策論

担当教員 ○福本 久美子、柴田 恵子、生野 繁子、松本 鈴子、李 玄玉

配当年次 1年

開講時期 第2学期

単位区分 選必

授業形態 講義

単位数 2

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

【授業のねらい】

保健医療福祉制度は、社会・経済的要因を背景に必要な制度・政策が作られ、看護政策は大きな転換期を迎えている。また、看護政策のあり方は看護の質を左右し、国民の健康な生活に大きく関連する。本科目では、看護の発展的立場にたち、看護政策のあり方に関する受講者の考えを述べることができる。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	
1	福本	社会保障における看護政策の意義
2	福本	看護行政組織の機能と役割
3	福本	看護政策過程とパブリックコメント
4	生野	看護政策に影響を与える団体
5	福本	保健医療福祉制度改革と看護政策
6	柴田	我が国の看護政策の歴史：養成制度と法的根拠
7	柴田	我が国の看護政策の歴史：資格の多様性
8	柴田	日本と海外の比較-課題学習と発表 イギリスの看護政策
9	李	韓国の看護政策（養成制度）
10	李	韓国の看護政策（質保証）
11	生野	看護政策の実際（看護職の処遇）
12	生野	看護政策の実際（ライフワークバランス）
13	松本	看護政策の実際（母子保健と看護政策）
14	福本	医療・看護を取り巻く状況からみた看護政策の今後の課題GW
15	福本他	まとめ

【履修上の注意事項】

授業前にテキスト等を読み、近年の看護政策の動向を調べ(60分以上)、問題意識を持って臨むこと。

【評価方法】

授業参加態度・貢献度(20%)、レポート(80%)。
各コマの講義に関する受講生の質問に対しては、各担当者が回答を行う。

【テキスト】

ヘルスケアシステム論(ヘルスケアサービス提供のための制度・政策)/日本看護協会出版会

【参考文献】

看護職者の政策過程入門/日本看護協会出版会、看護六法/新日本法規、保健師助産師看護師法60年史/日本看護協会出版会

基礎看護学特論

担当教員 柴田 恵子

配当年次 1年

単位区分 選必：基礎看護学分野

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

開講時期 通年

授業形態 講義

単位数 4

【授業のねらい】

患者・看護者の援助関係を中心に倫理性に関する認識について教授する。文献講読、討議を通して、対象となる文献の論点を自らの論点に引きつけ、主張を論述する能力を身につける。本科目の学びから、保健・医療・福祉の知識を備え、看護学における研究能力と高度な専門性を有するために必要となる自身の課題を見出す。

【授業の展開計画】

関係性、援助、自己決定、自己・他者、ケアの倫理・正義の倫理、看護技術という看護ケアに関係するいくつかのキーワードをもとに文献を読み、筆者の主張点を明らかにし内容について分析し討議する。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	オリエンテーション	16	オリエンテーション
2	中間報告会の資料を基に意見交換-1	17	論述方法を説明する
3	中間報告会後の意見の修正と発表	18	論述方法を応用する
4	課題文献からレポートを作成する	19	研究課題について説明する
5	課題文献を読み、論点の見出し方を知る	20	意見交換と発表
6	課題文献を読み、論点整理と論述を知る	21	研究課題の学術的背景を説明する
7	意見交換と発表	22	研究課題の研究方法を説明する
8	課題文献の論点整理から構成への展開を知る	23	研究課題の研究計画を説明する
9	課題文献の構成の確認を知る	24	意見交換と発表
10	課題文献の論述の応用を知る	25	研究実施の準備状況を確認する
11	意見交換と発表	26	研究課題を再度、検討する
12	論述方法を確認する	27	研究課題の研究計画を完成する
13	効果的な論述方法を検討する	28	意見交換と発表
14	論述の展開を確認する	29	研究課題について報告する
15	意見交換、まとめ	30	研究課題について報告書にまとめる

【履修上の注意事項】

レポート作成を行ない、出席者の人数分の部数を準備すること。

【評価方法】

参加・態度：40% 作成してきたレポートを発表する。討議に積極的に参加する。
レポート：60% レポート内容

【テキスト】

必要に応じて指示し、紹介する。

【参考文献】

必要に応じて指示し、紹介する。

基礎看護学演習

担当教員 柴田 恵子

配当年次 1年～2年

単位区分 選必：基礎看護学分野

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

開講時期 第2学期～第1学期

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

看護の倫理、哲学に関連する分野に加え受講生の研究テーマに沿った国内及び海外文献から最新情報を得、演習での討議材料とし研究の方法を修得する。本科目の学びから、保健・医療・福祉の知識を備え、看護学における研究能力と高度な専門性を有するために必要となる自身の課題を見出す。

【授業の展開計画】

受講生の研究テーマに沿った研究方法を見出し、その手法について学習し習得を目指す。講義は4期に分かれており、以下のとおりである。

週	授業の内容	週	授業の内容
1	オリエンテーション	16	中間報告会後の見直し
2	先行研究の文献を批判的に読む	17	中間報告会後の意見交換
3	先行研究を基に研究テーマを再考する	18	研究方法を習得する：質的研究
4	意見交換と発表	19	研究方法を習得する：量的研究
5	研究に関連する文献の発表・意見交換	20	研究デザインと研究方法
6	研究に関連する文献のまとめ	21	研究目的と研究方法
7	報告会：発表の方法を知る	22	研究方法を習得する：研究データの取得
8	研究に関連する文献の発表	23	研究方法を習得する：研究における倫理
9	研究に関連する文献の精読・意見交換	24	報告会：自身の研究の計画を説明する
10	報告会：効果的な発表の方法を知る	25	文献の精読：研究テーマとの関連づけ
11	研究計画を再考する	26	文献の精読：研究方法の確認
12	再考した研究計画の発表	27	文献の精読：考察の確認
13	研究テーマ・計画の報告準備	28	これまでの成果報告
14	これまでの成果報告	29	報告を振り返り文章化する
15	学習内容のまとめ	30	学習内容をまとめ報告書を作成する

【履修上の注意事項】

基礎看護学特論と合わせて授業展開を行うので、授業計画を確認しておくこと。

【評価方法】

参加・態度：40% 作成してきたレポートを発表する（予習）。レポートを基に積極的に参加する。授業後は学習内容を振り返り、作成したレポートを修正する（復習）。
レポート：60% レポート内容

【テキスト】

必要に応じて指示し、紹介する。

【参考文献】

必要に応じて指示し、紹介する。

基礎看護学研究

担当教員 柴田 恵子

配当年次 2年

単位区分 選必：基礎看護学分野

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

開講時期 通年

授業形態 研究

単位数 8

【授業のねらい】

研究テーマを明確にし、研究手法を用いて論文を作成し発表する。その過程を通して、研究の基礎的能力を身につける。本科目の学びから、保健・医療・福祉の知識を備え、看護学における研究能力と高度な専門性を有するために必要となる自身の課題を見出す。

【授業の展開計画】

<第1学期：30回；以下の1-15回分、第2学期：30回；以下の16-30回分>

1期（1-7回）…これまでの成果を報告し、参加者からの意見を基に研究計画を再考する。2期（8-15回）…研究を計画に沿って遂行し、論文を作成する。

3期（16-22回）…これまでの成果を報告し、参加者からの意見を基に研究の課題を見出す。4期（23-30回）…論文を作成し発表する。発表時の意見を基に論文内容を修正し、より完成度の高い論文を作成する。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	中間報告会の報告準備、プレゼン、修正	16	検討した研究計画の発表と修正
2	報告会の振り返り	17	調査データの分析
3	研究倫理についての学習	18	調査データの分析と報告
4	調査実施に向けての準備と修正	19	調査データの考察
5	修正した調査の確認	20	考察の文章化（第1回）
6	研究デザインの確認、研究背景の整理	21	研究の報告（第1回）
7	研究背景の文章化（第1回）	22	研究背景から考察までの見直し、修正
8	実施した調査のデータ整理	23	修正した研究内容の文章化（第2回）
9	実施した調査のデータ整理と報告	24	研究の報告（第2回）
10	調査のまとめ	25	再修正した研究内容の文章化（第3回）
11	調査のまとめと報告	26	研究の報告（第3回）
12	調査についての文章化（第1回）	27	論文のまとめ（第1回）
13	報告：研究背景および調査	28	報告会の準備、修正
14	研究デザインの確認と修正	29	修正した論文のまとめ（第2回）
15	研究の見直しと検討	30	研究についてのまとめ

【履修上の注意事項】

学生は主体的に研究課題に取り組む。必ず担当教員に計画についての事前報告、実施状況の事後報告を行なう（予習・復習）。

【評価方法】

最終的に修士論文を作成し、提出、審査に合格することによって単位を認める。

【テキスト】

必要に応じて指示し、紹介する。

【参考文献】

必要に応じて指示し、紹介する。

看護病態機能学特論

担当教員 ○未定、檜枝 洋記、中野 聡太

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 選必：基礎看護学分野
選択：基礎

授業形態 講義

単位数 4

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

【授業のねらい】

人体の構造、機能を探索する中で、特に、循環、代謝、運動器を看護学の視点から多角的に研究し、生体の循環、代謝、運動器の解析に必要な基礎的な方法を修得します。メタボリック症候群、生活習慣病、職業性腰痛の予防など健康課題について探求的に取り組む能力を養います。また災害時には急性脳・心血管疾患が発症しやすく、災害時の二次的健康被害予防に対し看護学の視点から探求的に取り組む能力を養います。

【授業の展開計画】

メタボリック症候群、生活習慣病をベースに発症する急性脳・心血管疾患、運動器の構造的特徴、力学的な負荷をベースに発症する運動器障害に対するアセスメントに必要な基礎的知識を習得し、基本概念を理解する。同時にフィジカルアセスメントの技術を習得し、得られた所見を基に対象者を総括的に判断・評価し、バイタルサインや病歴聴取情報とともに看護診断を行い、看護計画を立案し、看護介入にいたる方法を学びます。

週	授業の内容	週	授業の内容
1	心臓血管解剖学①心臓 1-15) 掃本	16	筋骨格系の痛み 16-30) 中野
2	心臓血管解剖学②血管	17	筋骨格系解剖学① 上肢骨
3	メタボリック症候群の基礎・臨床	18	筋骨格系解剖学② 下肢骨
4	生活習慣病の基礎・臨床	19	筋骨格系解剖学③ 体幹骨
5	フィジカルエグザミネーション 呼吸	20	筋骨格系解剖学④ 上肢筋
6	フィジカルエグザミネーション 循環	21	筋骨格系解剖学③ 下肢筋
7	心臓血管系アセスメント 心筋梗塞	22	筋骨格系解剖学③ 体幹筋
8	心臓血管系アセスメント 心不全	23	筋骨格系とバイオメカニクス① 床反力
9	災害時の心臓血管系アセスメント	24	筋骨格系とバイオメカニクス② モーメント
10	心不全に対する看護 チーム医療	25	看護での基本動作支援① ベッド上での移動
11	心不全に対する看護 在宅看護	26	看護での基本動作支援② 寝返り
12	リハビリテーション看護 心不全	27	看護での基本動作支援③ 起き上がり
13	リハビリテーション看護 脳卒中	28	看護での基本動作支援④ 座位
14	最先端の医療施設見学	29	看護での基本動作支援④介助量の少ない移乗
15	呼吸・循環系まとめ	30	看護での基本動作支援④ 介助量の多い移乗

【履修上の注意事項】

各院生の受講可能な曜日、時刻を調整し、授業日を決めます。

【評価方法】

・討論 (50%) ・レポート課題 (50%) により総合的に評価します。
 ・レポートは、提示症例の看護アセスメントによる評価と病態生理に基づく総合的な看護判断・診断と看護介入との関わりに主眼をおいた課題とします。

【テキスト】

指定なし。適宜、講義内容を記した資料（プリント等）を配布します。

【参考文献】

適宜紹介します。

看護病態機能学演習

担当教員 ○未定、檜枝 洋記、中野 聡太

配当年次 1年～2年

開講時期 第2学期～第1学期

単位区分 選必：基礎看護学分野

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

【授業のねらい】

人体の構造、機能を探索する中で、特に、循環、代謝、運動器を看護学の視点から多角的に研究し、生体の循環、代謝、運動器の解析に必要な基礎知識を理解し、メタボリック症候群、生活習慣病、心不全、職業性腰痛の予防など健康課題についての研究能力を養います。メタボリック症候群、生活習慣病、心不全は病態生理の視点から、職業性腰痛は看護する看護師の身体的負荷の視点からの探索的研究能力を養います。

【授業の展開計画】

【授業概要】

- 1) 急性循環障害を伴う急性心筋梗塞、急性心不全、あるいは慢性循環障害である慢性心不全などの、急性期と慢性期では全く異なる病態である疾患における看護に関する分野の研究論文の抄読会を行い基礎知識と最新情報について取得できます。
- 2) リハビリテーションや介護の支援を含めて看護においては職業性腰痛の問題があります。筋骨格系の解剖、バイオメカニクスなどを理解し看護における支援時の身体的負担についての基礎、研究法を修得可能で、最新情報について取得できます。
- 3) 研究テーマ、研究デザイン、研究計画書、倫理面への配慮、データの収集、参考文献の集め方、読み方、データの結果・解析・考察、そして発表の仕方、論文の書き方など研究方法論を学習できます。

【授業計画】

- 1) 毎週1回、各大学院生は自ら選択した原著論文を抄読し、内容のディスカッションを行います。担当の時は、論文の要旨、方法、結果、考察をA4用紙にまとめたものを準備してください。
- 2) 各自の研究課題について研究計画書を作成します。
- 3) 実際のデータの収集、解析を行い、計画を進めます。
- 4) 循環・代謝は担当 掃本、運動器は担当 中野

【履修上の注意事項】

最新の原著論文を抄読する。授業日は各院生の受講可能な曜日・時刻を調整し決定します。

【評価方法】

文献の抄録・発表内容（40%）、アセスメント技術の習得度（50%）、取り組む姿勢（10%）を総合的に判断し、評価します。

【テキスト】

適宜紹介します。

【参考文献】

適宜紹介します。

看護病態機能学研究

担当教員 檜枝 洋記

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 必修：基礎看護学分野

授業形態 研究

単位数 8

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

【授業のねらい】

1. 先端医療（再生医療やゲノム医療など）あるいは先端医療と看護との関わりについて、自分なりの視点で課題を設定し、探究・解決する能力を身につける。
2. 文献調査や研究プロセスを通して、他者そして自分自身の主張を客観的・批判的に観る能力や論理的な論文・報告を作成する能力を身につける。

【授業の展開計画】

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	導入、授業計画の確認	16	研究実施
2	先行研究・文献レビュー	17	データ分析
3	先行研究・文献レビュー	18	データ分析
4	先行研究・文献レビュー	19	データ分析
5	研究テーマ・方法検討	20	データ分析
6	研究テーマ・方法検討	21	データ分析
7	研究計画書作成	22	修士論文作成
8	研究計画書作成	23	修士論文作成
9	研究準備	24	修士論文作成
10	研究実施	25	修士論文作成
11	研究実施	26	修士論文作成
12	研究実施	27	修士論文作成
13	研究実施	28	修士論文作成
14	研究実施	29	修士論文作成
15	研究実施	30	成果発表

【履修上の注意事項】

院生が参加可能な日時を踏まえて授業日を設定する。

【評価方法】

研究全体への取り組み（40%）、論文の内容（40%）、発表（20%）によって評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜、紹介する。

看護病態機能学研究

担当教員 中野 聡太

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 選必：基礎看護学分野

授業形態 研究

単位数 8

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

【授業のねらい】

自ら設定したテーマに添って研究プロセスを経験しながら研究を実践できる能力を身につける。

【授業の展開計画】

中野：理学療法士としての病院勤務経験、及び医療福祉領域における研究経験がある。

週	授業の内容	週	授業の内容
1	clinical question の抽出	16	調査・実験の実施
2	clinical question の構造化	17	調査・実験の実施
3	clinical question と文献レビュー	18	調査・実験結果の分析
4	clinical question と文献レビュー	19	調査・実験結果の分析
5	research question の検討	20	調査・実験結果の分析
6	research question の設定	21	論文作成
7	研究計画書の作成	22	論文作成
8	研究計画書の作成	23	論文作成
9	調査・実験方法の設定	24	論文作成
10	調査・実験方法の設定	25	論文作成
11	プレ調査・プレ実験の実施	26	論文作成
12	調査・実験方法の修正	27	成果発表の準備
13	調査・実験の実施	28	プレ成果発表
14	調査・実験の実施	29	論文のまとめと修正
15	調査・実験の実施	30	論文のまとめと修正

【履修上の注意事項】

院生が参加可能な日時を踏まえて授業日を設定する。

【評価方法】

論文作成の過程・内容（80％）と発表（20％）によって評価する。

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献】

適宜、紹介する。

看護病態機能学研究

担当教員 未定

配当年次 2年

単位区分 選必：基礎看護学分野

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

開講時期 通年

授業形態 研究

単位数 8

【授業のねらい】

心血管疾患の中でも急性循環不全は致死的です。その心血管疾患の基になるメタボリック症候群、生活習慣病の病態の解明は重要な研究課題となり、高齢化で増加している心臓病の終末像である心不全の看護視点にたった看護介入の研究は、高齢化の本邦においては重要なテーマになります。当研究室では、看護視点を意識した2つの課題を柱とします。

【授業の展開計画】

- 1) 遺伝要因と環境要因の両方の因子から心臓血管疾患の発症機序を明らかにすることで、生活習慣病予防の健康課題に探求的に取り組む能力を養います。
- 2) 高齢化と急性心臓疾患の救命率向上により増加している心不全は、あらゆる心臓病の終末像であり、心不全の病態を理解し、薬理学的な面も含めて、的確なアセスメントを行い、看護計画を立案することで、チーム医療としての心不全患者のQOL改善を意識した看護サイドからの介入方法を開発します。
- 3) 研究対象者の倫理面を配慮したうえで、QOLを改善につなげる研究計画書を作成します。
- 4) データの収集、統合、解析を行い、わかりやすい図表を作成します。
- 5) 原著論文の作成、完成を指導します。
- 6) 研究は特定の疾患・病態を深く洞察し解析することでその疾患のみならず、他の疾患・病態に対しても、同様の観察力が身につく、臨床での疑問を意識して看護する、つまり予測して看護する能力を養います。そのことが専門的な看護と患者さんへのベネフィットにつながると思います。

【履修上の注意事項】

講義は各院生の日程を調整し、授業日を決めます。

【評価方法】

論文作成（50%）と研究態度（50%）によって評価します。

【テキスト】

各院生の研究課題に即した関連したものを適宜紹介します。

【参考文献】

各院生の研究課題に即した関連したものを適宜紹介します。

成人看護学特論

担当教員 未定

配当年次 1年

単位区分 選必：実践看護学分野
選択：基礎看護学分野

開講時期 通年

授業形態 講義

単位数 4

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

成人看護学演習

担当教員 未定

配当年次 1年～2年

単位区分 選必：実践看護学分野

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

開講時期 第2学期～第1学期

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

成人看護学研究

担当教員 未定

配当年次 2年

単位区分 選必：実践看護学分野

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

開講時期 通年

授業形態 研究

単位数 8

【授業のねらい】

【授業の展開計画】

【履修上の注意事項】

【評価方法】

【テキスト】

【参考文献】

成育看護学特論

担当教員 ○ 松本 鈴子、牛之濱 久代、二宮 球美

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 選必：実践看護学分野
選択：基礎看護学分野

授業形態 講義

単位数 4

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目。平成29年度より「小児看護学特論」から科目名変更。

【授業のねらい】

成育看護の対象となる女性と子どもを取りまく社会や健康課題の特性を学ぶ。特に新しい家族を形成する過程、女性および子どもの成長・発達的变化の移行期に生じる健康課題について理解を深める。さらに母子保健を担う看護専門職の役割、地域社会で生活する女性と子ども、その家族への健康支援を検討し、今後の方向性を探求する。

【授業の展開計画】

目標1. 女性と子どもを取りまく社会と助産・母子保健の意義について理解を深める。
2. リプロダクティブヘルスの視点から女性のライフステージにおける健康課題とケアのあり方を考察する。
3. 多様化する子どもと家族の健康生活、健康課題をもつ子どもと家族へのケアのあり方を考察する。
4. 母子保健を担う看護専門職と他専門職の現状と課題について理解を深め、助産・看護観を培う。

<1年次1学期>

(1～6回：松本)

1回 授業計画のガイダンス

2回 対象及び家族中心としたケアの意義とあり方

3回 妊娠・出産・育児を取りまく社会環境

4回 母子保健の指標・動向から捉える健康課題

5回 妊娠・出産・育児に関する助産・看護の発達

6回 看護師・助産師に求められる実践能力

(7～10回：牛之濱)

7回 新しい家族の形成過程とケア

8回 思春期にある女性の健康とケア

9回 成熟期にある女性の健康とケア

10回 更年期・老年期にある女性の健康とケア

(11～14回：二宮)

11回 子どもと家族の健康と社会環境

12回 NICUに入院する子どもと家族とケア

13回 障害をもつ子どもと家族とケア

14回 虐待をめぐる親・家族とケア

(15回：松本)

15回 これまでの学びと次回からの授業計画について

<1年次2学期>

(16～19回：松本)

16回 妊娠をめぐる女性の選択と不妊治療における周産期のケア 17回 出生前診断とケア

18回 流産・死産を体験した女性・家族とケア 19回 大学院生の関心のあるテーマのピックアップ

(20～30回：松本・牛之濱・二宮 テーマによって担当教員を決める)

20～28回 ピックアップしたテーマに関連する文献学習・討議

29～30回 専門職としての責任と役割

【履修上の注意事項】

大学院生と教員の日程を調整して、授業日を決定する。

授業展開計画は日程が前後する場合がある。

【評価方法】

授業の参加状況40%（プレゼンテーション・討論）、レポート内容60%により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜資料を配布する。

【参考文献】

適宜紹介する。

成育看護学演習

担当教員 ○ 松本 鈴子、牛之濱 久代、二宮 球美

配当年次 1年～2年

開講時期 第2学期～第1学期

単位区分 選必：実践看護学分野

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目。平成29年度より「小児看護学演習」から科目名変更。

【授業のねらい】

成育看護の対象となる女性と子ども、その家族の健康課題への助産・看護実践に焦点をあて研究文献を批判的に読み、事例を検討することなどを通して研究疑問の設定や研究計画の立案につなげる。また、探求的思考や創造的思考の向上につなげる。

【授業の展開計画】

目標1. 成育看護に関わる既存の研究の動向を分析し、研究の現状と意義を考察する。
2. 成育看護の実践に関連する文献や事例等の討議を通して、対象理解や看護実践の方略を考察する。
3. 成育看護に関する研究動向や看護実践における課題から研究課題を探索する。

<1年次1学期>

- 1回 授業計画のオリエンテーション(松本)
- 2～5回 成育看護学に関する看護研究の動向(松本)
- 6回 助産・看護実践や看護研究における関心・疑問(松本)
- 7回 関心あるテーマに関する文献検索と文献整理(松本)
- 8回 文献のクリティークの仕方(松本)
- 9～13回 関心のある看護論文のクリティーク(松本・牛之濱・二宮)
- 14～15回 成育看護ケアの向上のための看護実践・研究の課題(松本・牛之濱・二宮)

<1年次2学期>

- 16～19回 成育看護実践に活用できる理論・モデル(松本)
- 20～24回 成育看護における理論の展開：事例1(松本)
- 25～29回 成育看護における理論の展開：事例2(牛之濱)
- 30回 成育看護学演習の学びと今後の展望(松本・牛之濱・二宮)

【履修上の注意事項】

大学院生と教員の日程を調整して、授業日を決定する。
授業展開計画は日程が前後する場合がある。

【評価方法】

授業の参加状況40%(プレゼンテーション・討論)、事例展開40% レポート20%により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜資料配布・紹介する。

【参考文献】

適宜紹介する。

成育看護学研究

担当教員 松本 鈴子

配当年次 2年

単位区分 選必：実践看護学分野

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目。平成29年度より「小児看護学研究」から科目名変更。

開講時期 通年

授業形態 研究

単位数 8

【授業のねらい】

成育学看護に関連して研究課題を明確にし、看護研究計画に沿って実施し、修士論文を作成する。また看護研究のプロセスを通して論理的・多角的・探求的思考等の看護研究に必要な能力を養う。

【授業の展開計画】

- 目標
1. 研究課題に応じた研究計画書を立案する。
 2. 倫理審査委員会に提出する書類作成をする。
 3. 看護研究倫理を遵守し、研究計画書にそって研究データ収集を行う。
 4. 研究データ収集・分析を行い、その分析結果をまとめる。
 5. 分析結果をもとに考察をし、研究目的との一貫性を吟味しなら修士論文を作成する。
 6. 論理的に説得する力、効果的な媒体の作成などのプレゼンテーション能力を高める。

<1年次2学期>

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|--------------|
| 1～2回 | 授業計画ガイダンス、研究計画書の構成 | 3～4回 | 研究課題の検討 |
| 5～7回 | 先行研究の概況および看護研究の目的・意義 | 8～9回 | 研究方法の検討 |
| 10～11回 | 倫理的配慮 | 12～13回 | 倫理委員会提出書類の検討 |
| 14～15回 | 研究計画書（中間発表）のプレゼン準備・予行 | | |

<2年次1学期>

- | | | | |
|--------|-----------------------|--------|------------------|
| 16～19回 | 研究計画書（中間発表）プレゼンの準備・実際 | 20～24回 | 研究計画書・倫理審査書類の再検討 |
| 25～26回 | 倫理委員会提出書類完成・面接 | 27～30回 | 倫理審査提出書類の修正 |
| 31～35回 | 研究の予備実施・検討 | 36～36回 | 調査協力施設等との調整 |
| 37～40回 | 研究データ収集・分析 | | |

<2年次2学期>

- | | | | |
|--------|---------------------|--------|-----------|
| 40～44回 | 研究データ収集・分析 | 45～50回 | 研究結果の考察・他 |
| 50～54回 | 論文洗練化 | | |
| 55～57回 | 研究成果（発表会）のプレゼン準備・実際 | | |
| 58～60回 | 論文の修正 | | |

*最終試験（面接）

【履修上の注意事項】

大学院生と教員の日程を調整して、授業日を決定する。
授業展開計画は日程が前後する場合がある。

【評価方法】

研究プロセスにおける取組み40%、研究論文60%により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜紹介する。

【参考文献】

適宜紹介する。

老年看護学特論

担当教員 ○生野 繁子、山本 恵子

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 選必：実践看護学分野
選択：基礎看護学分野

授業形態 講義

単位数 4

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

【授業のねらい】

高齢者を生活者として理解するとともに、ケアニーズを持つ高齢者に対して、自宅・地域と病院・施設を連続した視点でとらえ、障害の原因となる疾患・予防・看護の最新の知見、高齢者ケアに関する政策・資源について日本と高齢社会各国の現状を比較検討する。また、高齢者のリハビリテーション、多職種連携、内外における精神看護の現状と課題、高齢者ケアにおけるジェンダーの影響についても理解する。

【授業の展開計画】

- 1学期 日本の高齢者対策と高齢社会各国の老年看護・リハビリテーション・メンタルヘルス・精神医療や看護の現状を理解することができる。
- 2学期 日本地域包括ケアシステムと高齢者ケアの現状を理解し、今後のあり方を展望し、老年看護における看護職の役割と他のケア専門職との連携について考察できる。

週	授 業 の 内 容	週	授 業 の 内 容
1	導入 授業計画の確認 (生野)	16	地域包括ケアについて (生野)
2	日本の高齢者ケアシステムの概要 (生野)	17	地域包括ケアの現状 (生野)
3	日本の高齢者関係法の概要 (生野)	18	熊本県の高齢者ケアサービスの現状 (生野)
4	日本の高齢者医療について (生野)	19	有明地域の高齢者ケアの取り組み (生野)
5	日本の高齢者福祉について (生野)	20	高齢者ケアとジェンダーについて (生野)
6	日本の介護保険サービスについて (生野)	21	高齢者の終末期医療について (生野)
7	海外の高齢者ケアシステムの現状 (生野)	22	高齢者の胃瘻等について (生野)
8	海外の高齢者ケアシステムの課題 (生野)	23	痰の吸引等医療処置に関する変遷 (生野)
9	日本のリハビリテーション看護の現状(山本)	24	高齢者ケアを担う専門職について (山本)
10	海外のリハビリテーション看護の現状(山本)	25	高齢者看護と多職種連携について (山本)
11	リハビリテーション看護の課題 (山本)	26	高齢者ケアの多職種連携上の課題 (山本)
12	日本の精神医療・看護の現状 (上田)	27	認知症医療・看護の現状と課題 (上田)
13	日本の精神医療・看護の課題 (上田)	28	メンタルヘルスケアの現状と課題 (上田)
14	海外の精神医療・看護の現状と課題 (上田)	29	精神医療・看護の展望 (上田)
15	特論の学びと修論テーマの考察 (生野)	30	日本の高齢者ケアシステムの課題 (生野)

【履修上の注意事項】

1. 授業展開計画については日程が前後することもある。
2. 受講生のレジュメやレポートを基に進めていく。

【評価方法】

発言内容50%、提出されたレポート50%の割合で総合的に評価する。
担当者の評価割合は生野50%・山本25%・上田25%である。

【テキスト】

随時紹介する

【参考文献】

最新の「高齢社会白書」および「国民衛生の動向」、「国民福祉の動向」、その他は随時紹介する。

老年看護学演習

担当教員 ○生野 繁子、山本 恵子、未定

配当年次 1年～2年

単位区分 選必：実践看護学分野

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

開講時期 第2学期～第1学期

授業形態 演習

単位数 4

【授業のねらい】

人口減少多死社会の中で、高齢者政策および高齢者ケアがどのように提供されているのか現状を把握し、高齢者を取りまく家族・専門職・高齢者自身が直面する課題について検討する。また、その課題解決に向けて看護職が先駆的に実践している例を見学研修し、保健医療福祉連携のために看護職に求められる役割、生活障害を残しやすい疾患を有する高齢者のリハビリテーション看護のあり方や増加する認知症高齢者・老年期のメンタルヘルスケアについて展望することができる。

【授業の展開計画】

- ・開講は1年次2学期からであり、2年次1学期に渡り変則的であるため、学習進度に注意すること。
- ・修士論文のテーマが深められるような自己学習を継続し、日本における老年看護学の課題と展望が明確になることを目的としている。

週	授業の内容	週	授業の内容
1	導入 1年生対象の演習計画の確認 (生野)	16	導入 2年生対象の演習計画の確認 (生野)
2	修論テーマと法的根拠の関連 (生野)	17	修論テーマ関連先行研究要約作成要領(生野)
3	上記テーマで順次発表 (生野)	18	先行研究サマリーを順次発表 (生野)
4	高齢者ケア政策と看護の関連 (生野)	19	先行研究サマリーを順次発表 (生野)
5	上記テーマで順次発表 (生野)	20	テーマ関連の高齢者看護の課題① (生野)
6	専門職が直面する課題 (生野)	21	テーマ関連の高齢者看護の課題② (生野)
7	上記テーマで順次発表 (生野)	22	介護におけるジェンダーの問題 (生野)
8	高齢者ケアとジェンダーについて (生野)	23	テーマ関連のジェンダーの課題 (生野)
9	高齢者リハビリテーションの課題 (山本)	24	認知症高齢者政策の課題 (山本)
10	高齢者ケア施設のリハ看護の課題 (山本)	25	介護者支援の課題 (山本)
11	9・10テーマで順次発表 (山本)	26	24・25テーマのサマリー順次発表 (山本)
12	精神医療政策・看護の課題 (上田)	27	精神科看護師の現状と課題 (上田)
13	メンタルヘルスケアの課題 (上田)	28	日本における精神保健の課題 (上田)
14	12・13テーマで順次発表 (上田)	29	27・28テーマのサマリー順次発表 (上田)
15	高齢者看護の課題の明確化 (生野)	30	日本における高齢者政策の展望 (生野)

【履修上の注意事項】

受講生の背景により看護実践事例見学研修が必要と判断した場合は、受講生と修士論文テーマに関連した施設を検討し、日程調整後に実施することがある。

【評価方法】

演習における発言内容50%、提出されたレジュメやレポート50%の割合で総合的に評価する。担当者の評価割合は生野50%・山本25%・上田25%である。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献】

各自のテーマに関するものを随時紹介する。

老年看護学研究

担当教員 生野 繁子

配当年次 2年

単位区分 選必：実践看護学分野

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

開講時期 通年

授業形態 研究

単位数 8

【授業のねらい】

少子高齢化と人口減少が進展するわが国において、家族観や高齢者ケアに対する価値観の変化を理解し、高齢者ケアに関する保健医療福祉連携、高齢者ケア施設における看護職の役割、高齢者ケアと介護保険法、介護保険サービスに対する利用者の評価、高齢者のリハビリテーション看護のあり方、地域の高齢者ケアにおけるジェンダーの影響に関する看護事象、高齢者ケアと精神看護の接点について、特論と演習の学びを基に研究する。

【授業の展開計画】

1. 自らの研究計画に基づき主体的に研究することができる。
2. ゼミや研究会において適切な報告をすることができる。
3. 学会活動や研究発表を行えるよう主体的に取り組むことができる。
4. 規定に沿って修士論文を完成させることができる。

1学期 30回

1～10. 院生運営の中間報告会で発表、文献レビューのまとめ

11～20. 調査研究活動の実施、データの分析など

21～30. 調査のまとめ、ゼミ報告会で発表

2学期 30回

1～10. 修士論文の構成の検討、論文執筆

11～20. 論文執筆、要約の作成と提出

21～30. 論文の完成、最終報告会への準備

【履修上の注意事項】

長期履修生に関しては、進度を確認しながら別途日程調整をする。

【評価方法】

中間報告会内容20%、ゼミ報告会内容20%、提出ジュメやレポート40%、ゼミでの発言内容20%の割合で評価する。

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献】

各自の研究テーマに添って、随時紹介する。

老年看護学研究

担当教員 山本 恵子

配当年次 2年

単位区分 選必：実践看護学分野

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

開講時期 通年

授業形態 研究

単位数 8

【授業のねらい】

1. 老年看護学および周辺領域における近年の研究動向について、情報収集し自身の研究疑問を明確化することができる。
2. 研究倫理を遵守し、研究を進めると同時に多くの専門分野の方から助言を求め加筆修正することができる。
3. 研究結果を修士論文としてまとめることができる。

【授業の展開計画】

山本：看護師・保健師として病院勤務

週	授業の内容	週	授業の内容
1	研究の意義と方法	16	研究の進捗状況報告
2	プレゼンテーションの方法	17	研究遂行状況の見直し
3	中間報告会の準備	18	調査実施後の注意：調査対象者への配慮
4	中間報告会の準備	19	修士論文構成について
5	中間報告会の振り返り：助言の活かし方	20	研究枠組みと結果の提示
6	研究疑問の明確化：文献レビュー	21	研究結果の分析と考察
7	研究疑問の明確化：文献レビュー	22	研究結果の分析と考察
8	研究倫理について	23	研究結果の分析と考察
9	倫理審査について	24	研究結果の分析と考察
10	テーマ設定と研究方法の検討	25	修士論文作成
11	研究計画書の作成	26	修士論文作成
12	研究計画書の作成	27	修士論文作成
13	調査実施前の注意：調査対象者への配慮	28	成果発表の準備
14	研究の実施	29	論文査読について
15	研究の実施	30	成果発表と研究限界

【履修上の注意事項】

長期履修生については、進度をみながら別途日程調整をする。
上記を2コマずつ実施するため、全部で60コマとなる

【評価方法】

中間報告会15%、文献レビュー25%、研究活動とレポート60%を合計して評価する。
評価については講義の中で、コメントを返します。

【テキスト】

適宜、紹介する。

【参考文献】

各自の研究テーマに従い、適宜、紹介する。

地域看護学特論

担当教員 ○生野 繁子、福本 久美子、未定

配当年次 1年

開講時期 通年

単位区分 選必：実践看護学分野
選択：基礎看護学分野

授業形態 講義

単位数 4

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

【授業のねらい】

自治体の行政サービスから国際的な範囲（国際協力）まで視野に入れ、全ての人が生涯を通じ、健康的な生活を営むために、ヘルスプロモーションの視点（住民主体・住民参加、自己決定・協働）に基づく地域看護活動の方法と地域看護職の役割について学ぶ。特に、歴史的資料や先駆的な活動事例、地域看護職のパートナーから看護活動への提言等から、地域看護活動の本質を探究し、地域看護の専門職としてのあるべき姿を再認識し、地域看護の将来展望を抱くことができる。

【授業の展開計画】

週	授業の内容	週	授業の内容
1	福本/生野 地域看護学の目標・理念	16	福本 ライフスタイルと健康②
2	福本 地域看護と公衆衛生看護	17	未定 健康格差と公正①
3	未定 地域看護と在宅看護	18	未定 健康格差と公正②
4	福本 地域看護と公衆衛生看護の歴史的探究	19	未定 健康格差と公正③
5	福本 地域看護と公衆衛生看護の歴史的探究	20	未定 健康格差と公正④
6	福本 地域看護と公衆衛生看護の歴史的探究	21	福本 公害と健康①
7	福本 地域看護と公衆衛生看護の歴史的探究	22	外部講師 公害と健康②
8	福本 地域看護の活動理論①	23	福本 母子と健康①
9	福本 地域看護の活動理論②	24	福本 母子と健康②
10	福本 地域看護の対象と活動の場の広がり	25	生野 高齢者と健康
11	未定 地域看護技術①（家庭訪問）	26	未定 高齢者と健康
12	福本 地域看護技術②（健康教育）	27	外部講師 住民から見た地域看護活動
13	福本 地域看護技術③（地区診断）	28	外部講師 マスコミから見た地域看護活動
14	福本 地域看護技術④（地区組織活動）	29	外部講師 外国人から見た地域看護活動
15	福本 ライフスタイルと健康①	30	福本/生野他 まとめ(地域看護活動の本質)

【履修上の注意事項】

授業前後の予習復習を行うこと

【評価方法】

予習・復習による自主的学修態度 20%、レポート 80%（期日までに提出がない場合は減点）

【テキスト】

コミュニティアズパートナー（地域看護学の理論と実際） エリザベスT. アンダーソン他編集、金川克子他監訳
医学書院

【参考文献】

参考図書は適宜紹介する。

地域看護学演習

担当教員 ○生野 繁子、福本 久美子、未定

配当年次 1年～2年

開講時期 第2学期～第1学期

単位区分 選必：実践看護学分野

授業形態 演習

単位数 4

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目

【授業のねらい】

- 1) 地域看護学の対象と活動展開方法、地域看護と臨床看護の違いや連携について、先行研究論文の抄読やフィールドワーク演習を通して学ぶ。
- 2) 地域看護学の対象である地域の理解を深め、地域の健康課題を把握しその課題を解決する方法を学ぶ。
- 3) 地域看護学演習を通して、地域看護と臨床看護の違いと連携、継続看護、地域包括ケアシステムにおける地域看護の役割と課題を考えることができる。

【授業の展開計画】

- 1～4 講義：地域看護の対象と活動展開方法について（福本）
5～6 講義：地域の健康課題を把握・分析する方法について（福本）
7～20 演習：地域看護の対象事例（地域で生活する人々や地域）の健康課題の把握・分析を行う
（福本・未定）
- ①□地域看護の対象事例を選定する
 - ②□対象事例の健康課題を把握し、分析する
 - ③□対象事例の健康課題について把握分析した事項について発表し、議論する
 - ④□演習を通して地域看護学における分析的視点を学ぶ
- 21～25 地域看護学における先行文献を抄読し、地域看護学に関する知見を広める
26～30 講義・演習：地域看護と臨床看護の違いと連携、継続看護、地域包括ケアシステムにおける地域看護の役割と課題について（福本、未定、生野）

【履修上の注意事項】

授業前後の予習復習を行うこと

【評価方法】

レポート60%（期日までに提出がない場合は減点）、発表40%

【テキスト】

コミュニティアズパートナー（地域看護学の理論と実際）
エリザベスT. アンダーソン・ジュディス・マクファーレイン編集、金川克子・早川和生監訳

【参考文献】

参考図書は、適宜紹介する。

地域看護学研究

担当教員 生野 繁子

配当年次 2年

開講時期 通年

単位区分 選必：実践看護学分野

授業形態 研究

単位数 8

準備事項

備考 教育職員専修免許状選択必修科目。

【授業のねらい】

1. 文献検索等により自己の研究テーマを明確にし、研究計画に基づく研究の実践を通して、看護研究についての理解を深める。
2. ヘルスプロモーションの理念に基づく実践的研究のプロセスや研究成果を模索し、自己の研究テーマに基づく論文を作成する。

【授業の展開計画】

1. 研究方法の探究（研究方法論に関する講義並びに文献学習）
研究テーマに関連した原著論文やその他の論文を分析的に読みこみ、研究課題の視野を広げる
2. 自己の問題意識を明確化と研究計画書の作成
3. データの収集と分析
4. 論文の作成と研究成果の報告

週	授業の内容	週	授業の内容
1	研究方法の探究(研究に関する考え方)	16	研究の実施(データの分析)
2	研究方法の探究(質的研究方法)	17	研究の実施(データの分析)
3	研究方法の探究(量的研究)	18	研究論文の作成
4	研究における倫理的配慮	19	研究論文の作成
5	研究テーマの検討(文献検討)	20	研究論文の作成
6	研究テーマの検討(文献検討)	21	研究論文の作成
7	研究テーマの検討(文献検討)	22	研究論文の作成
8	研究計画書の作成	23	研究論文の作成
9	研究計画書の作成	24	研究論文の作成
10	研究計画書の作成	25	研究論文の作成
11	研究計画書について倫理委員会提出	26	研究論文の作成
12	研究の実施	27	研究成果の報告
13	研究の実施(データの収集)	28	研究成果の修正
14	研究の実施(データの収集)	29	研究成果の修正
15	研究の実施(データの分析)	30	最終報告

【履修上の注意事項】

授業に臨む折は事前準備を行い、授業後は再確認すること

【評価方法】

研究プロセス40%、研究論文 60%

【テキスト】

特に指定しない

【参考文献】

足立はるゑ著：看護研究サポートブック．木原雅子他著：医学的研究のデザイン．その他の参考図書は適宜紹介する。